



## 附属図書館商議員の役割

京都大学大学院工学研究科

教授 木村 磐 根

平成6年以来  
附属図書館商議  
員となったので、  
附属図書館との  
関連が深くなっ  
た。特に平成7  
年4月からは商  
議会のもとに専  
門委員会が設置  
され、附属図書  
館の抱えている  
諸問題を、各部  
局における問題



点を踏まえて検討を行った。近い将来リプレイスされる電子計算機システムについては、部局・教室、およびユーザーの最も関心の高いところであるので、時間をかけた議論が行われた。また図書館内部の見学をさせて頂いたので、全貌をあらまし掴むことができ、閲覧席の不足、書架の不足などの当面の問題点なども知ることができた。それまでは自教室の図書室の利用が大部分で、理学部、基礎研の図書室を若干利用させて頂いた程度であり、実のところ附属図書館

の利用は殆んどなかった。

筆者の図書館との関わりについて振り返ってみると、昭和20年に入学した京都一中には諄信館と呼ばれた独立した建物の図書館があり、その図書部員となった。今ほど書籍が氾濫していなかった時代である。色々な本を自由に読むことができる環境は楽しかった。部員は当時導入された日本十進分類法にしたがって古い分類記号を新しくするような仕事を手伝ったりもした。当時は新しい出版物がどんどん出たはなかったから、新規登録の仕事などは余りなかったように記憶している。中学3年生になって学制が替わり、我々は京都一中と府一（京都府立第一高等女学校）が合併して、府一の校舎にできた鴨沂高等学校に移ったが、ここには一中の諄信館に比べてかなり大きな図書館があり、またその図書部員となった。そういうわけで合計6年近く図書館というものに深い縁があったわけであるが、あくまでクラブ活動の一つであり、読書の目的の他に、結構優秀な同輩や先輩がいた環境を楽しんでいたように思う。

さて京都大学の附属図書館についての認識は、前述のようにごく最近になってからのことであ

るが、特に電子化されつつある現代の図書館の仕事、機能が想像以上に複雑で大変であること隔世の感がある。現在京都大学の蔵書数は約530万冊とのことであるが、その内76万冊が附属図書館に所蔵されており、残り454万冊は各部局の図書館（室）に所蔵されているが、その全体の管理を附属図書館が行っている。

附属図書館の予算を見ると学生用図書購入費は年間700万円弱、その他の参考図書費が850万円程度で、附属図書館の毎年の新規購入書籍数は和書4,000冊、洋書700冊程度である。これらの書籍の選定には商議員が分担しているが、その経験では毎年出版される書籍の内比較的学術的なものに限っても、予算の制限内で実際購入できるのは新刊書のうちの数%程度に過ぎないことがわかる。従って京都大学の図書館ならこんな本はあるだろうと思っても、その本が所蔵されている確率は意外に低いことがわかった。これは文部省で認められる図書購入費が数年前から大幅に削減され、その後殆ど増加することがないという事情、および出版の単価の上昇などによっている。学内には附属図書館及び大学の図書館の在り方などを議論する商議会という場はあるが、最も肝心の図書購入費の厳しい制限のもとでは、むなしい議論となることが避けられない。特に全国的にも中枢の大学の図書館としては十分な図書購入費がついて然るべきものと思われる。

一方サービスについてみると、最近のコンピュータネットワークの目覚ましい発展により、書籍登録とユーザーの蔵書の検索などが画期的に便利になっている。登録については各図書室での受入図書を端末からオンラインで学情センターに登録するプロセスを行うと、本学附属図書館にも登録されるため、昔に比べて図書室での仕事の効率化が図れるようになった。一方ではこのように効率化しても図書室職員の削減でマンパワーが追い付かない問題は残っている。

ユーザーも学内の蔵書の検索（OPAC）がそれぞれの図書館に出向かなくても可能となっ

てきている。ただしこれは電子的に登録されている比較的新しい図書に限られ、附属図書館の蔵書に対しては18%、全学ではまだ9.3%程度に過ぎないとのことであるから、残りの蔵書については附属図書館にある図書カードから検索しなければならない。今後は新しく所蔵される書籍については、検索はOPAC端末からとなり、図書カードをなくして行く方向にある。それゆえ蔵書のデータベースへの遡及入力が必要であることが強く認識されているが、これにはかなりの予算を必要とし、附属図書館としては細々ながら実行されてはいるが、部局特に教室レベルでは予算的にもマンパワー的にも実際上殆ど不可能に近いという印象をうけている。

ネットワークを通してのユーザーのサービスについては、現状では専用端末から入力するか、さもなくばOPACのためのID番号を必要とするなどの制限があるが、これは現状の図書館のコンピュータシステムからくる問題であり、2年後にリプレイスされるシステムでは現状の不便さは殆ど解消されることになっている。

遠い将来には、すべての図書が内容まで含めてデータベース化され、いわゆる電子図書館となることと思われるが、現在は試みの段階である。ユーザーにとって自分の研究室で、あるいは自宅の書斎で、居ながらにして端末から図書を探し、その中身も閲覧できることは夢であり、早く実現してほしいものである。しかし古いものも含めすべての図書を内容までデータベース化するには莫大な費用・労力を必要とするので、実現にはかなりの時間がかかるであろう。むしろ、そこまで行かないまでも、新しい計算機システムにより、種々の点でユーザーにとって便利になり、かつ図書室職員の労力が省ける管理システムに改善していくことが当面の重要な課題であろう。その意味でも附属図書館商議員の役割は今後益々重要になってくるのではないだろうか。

## 附属図書館利用についての二股膏藥的解説

文学部研修員 野 口 隆

最初に質問を出す。京都大学附属図書館に関する次のAからEの記述のうち、正しいものは一つしかない。それはいずれか。

- A. 目録に登録されているのに2階の書架に見当たらない本は全て貸出中である。
- B. 或る図書が2階の書架にあるか地下書庫にあるかは職員に尋ねなければ判らない。
- C. いわゆる新分類の図書は全て2階の書架にある。
- D. オンライン目録の機械操作が苦手な人はカード目録を引けばそれで事は足りる。
- E. オンライン目録で検索して見つからない図書は附属図書館に所蔵されていない。

このうち四つは間違いなのだが、しかしそれらは利用者に十分知られてはいないように見受けられるので、またこの拙文が人目に触れるのは丁度新学期ごろということでもあるので、附属図書館の利用のしかた特にそのわかりにくい点のいくつかについて、僭越ながらここで初歩的な解説をしようと思う。右のそれぞれの当否を既に正確に把握しておられる向きは適当に読みとばしていただきたい。質問の正解は以下の文中で順次明らかにしてゆく。

ところで僭越なわたしは何者かというと、文学部の学生院生等として長く本館を利用してきた一方で、この八年ほどはアルバイトで夜間や週末の図書出納業務にも携わってきた図書館職員のはしくれである。そのためこの文章には、はしくれ職員として不慣れな利用者に対し懇切丁寧に説明するという立場と、一利用者として現状の改善すべき点を「おかみ」に訴えるという立場とが入り混じる。「二股膏藥的解説」と題する所以である。

### 1 地下にひそむ図書

図書館を使い慣れた利用者にとっては当たり前というもおろかなことなのだが、地下にも本がある、ということを知らない利用者は少なくない。まずはそのことを強調しておきたい。

目録によればこれこれの記号で、しかじかの図書があるはずなのだが2階の書架にない、もしや貸出中ではあるまいか、という問い合わせをカウンターでしばしば受ける。試験やレポートや語学の講読にからむ図書ならばそのとおり貸出中である可能性が大なのだが、むしろ一般的にはそれは、地下書庫に排架されているため2階で見当たらないだけであることが多い。つまり最初の質問のAは間違いである。無論地下の図書も、多少手続きは面倒だけれど、2階の開架図書と同じように読んだり借りたりすることができる。

本来ならば目録を見るだけでその図書が2階にあるのか地下にあるのか、判るようになっていくことが望ましい。しかし現在カード目録はそうっておらず、登録されている本が2階の書架にない場合とりあえずカウンターの職員に問い合わせることが必要である。質問の正解はBである。すべての利用者がその問い合わせを励行しだせばやがて、カウンターでは対応しきれなくなって目録に開架閉架の別を示すためのプロジェクトが動き出す日があるいは来るかもしれない。それは例えば、「書庫」などという判子を作ってそれを特定のカードにひたすら押しつけてゆくという単純な作業によって達成できることなのである。なおオンラインの目録は既に開架閉架の別をすべて明記しており、さすがにこの点ではカード目録よりも進化していると評することができる。

どのような性質の図書が地下に送られるのかという、まず第一に古い本。その中には、古いゆえに貴重なものもあれば日進月歩の学界で今では価値がゼロに近いものもある。地下書庫は保存倉庫の役割と書物の墓場を兼ねている。次に占有スペースが利用頻度に見合っていない全集叢書類。本居宣長全集・西田幾多郎全集・伊藤整全集・明治百年史叢書などはかつて開架の第一線に配置されていたが、時の流れとともに地下に沈んだ。古くはないのに地下に排架されるのは、専門性が高く利用が一部の研究者に限られる文献であろう。そのかわり地下の図書は、院生や教職員の場合開架に比べて貸出期間が長いので、これを要するに狭く深く利用されるものは地下に行き、逆に広く浅く利用されるものは開架に出る、ということになる。

ここで疑問に思うことがある。最初の質問のCも間違いで、いわゆる新分類の新しい図書でも一部は地下書庫に回されるのであるがその中に、どう見ても開架に置いた方がよさそうなものが数多く混じっているようにわたしには感じられるのである。狭く深くというのはこちらが勝手に考えたことで開架閉架の按排に特に明文化された基準はない由だが、しかし地下書庫に入庫検索できるのは院生以上と限られているのだから、素人向けの概説書などがそこに置かれると誰にも振り向いてもらえないのではあるまいか。以前からそう思っていたのでこの機会に上司に尋ねてみたら、申し出があれば検討した上で配置の不適切なものの変更するのだそうである。そこで早速自分に判る範囲で気づいたことは具申した。もし今後『索引本佩文韻府』や『新編国歌大観』を地上で見かけることがあれば、それはこの具申が通った結果である。利用者各位におかれても同様の御意見があれば是非御申し出を願いたいとのことである。

なお地下書庫の利用者への最大のお願いは、本の順序を乱さないこと。樹海のような電動の集密書庫で一旦図書が行方不明になると、その探索作業は困難をきわめ救出まで何年もかかる

ことさえある。その間その図書は一切利用できず図書館にとって大きな打撃となるので、くれぐれも地下書庫の図書はお間違えのないよう、正しい位置にお戻しいただきたい。

## 2 目録三者三様

図書を探すのに目録は不可欠だ。ことに附属図書館は書架が方々に分裂しているので、或る文献がどこに存在するか、そもそもその文献がどこかにあるのかないのか、それは目録を引かなければ判らない。だが悲劇的なことにこの図書館では書架も分裂しているが目録も分裂しており、和書の書名目録に限っても（その1）かなり古い本か、（その2）それほど古くはないが新しくもない本か、（その3）ごく新しい本か、によって引くべき目録もその引き方も全く違う。およそ情報というものを最も効率的に検索できるのはその一元化された状態においてであろうが、わが附属図書館の目録はその対極にあると言わねばならない。

三分裂している目録のうち最も扱いやすいのは「その2」で、これは単なるアイウエオ順である。「その1」はこれと微妙に異なり、大筋はアイウエオ順だけれどもその細部はいわゆる電話帳方式、つまり「高橋」や「武田」より前に「田島」「田中」「田村」が来るというように、まず書名を頭漢字別にまとめてある。但し頻度の低い漢字はまとめず単なるアイウエオ順に流す場合もあれば頭漢字のみならず2字以上の熟語別にまとめた場合もあって、配列順序に一貫性が乏しく慣れた人でもこれを引き損なうことが珍しくない。したがって、そこに目指す図書のカードが見つからないからといってすぐに諦めるのは早計で、前後のカードを繰り上下左右を確かめ、それで駄目でもなお図書館員に念を押してみないと本当に求める図書がないかどうかは判らない。

そして最も引きづらいのはやはりオンライン目録の「その3」。これに対する利用者の態度は、最初のDのように考えて疎んじる古風な態

度と逆にEのように過信する今時の態度との両極端に分かれるのであるが、どちらも間違っている。

キーボードは見るのもいやという昔気質の方には気の毒だがごく新しい受入図書は既にカード目録を作ることをやめてしまっているのです、どうしてもこれに立ち向かっていただかなくてはならない場合がある。すぐに動かなくなるし備え付けのマニュアルは説明が不親切なので近づきたくないのも無理はないけれど、機械音痴のわたしでもしばらく適当にいじっていたら何とかかなったので、気楽に触れてみることをおすすめしたい。動かなくなった時は「リセット」又は「取消」のボタンを押すのがコツのようである。

しかしこのオンライン目録はその華麗な外見のゆえにか、これさえ検索しておれば図書館のことは全て判るのであってカード目録のような旧時代の遺物をかえりみる必要はもはやないのだ、という印象を若い学生に与えているふしがなくもない。それは誤解であり、オンラインのデータは今なお発展途上というか未完成のものなのでカードを引かねば見つからない図書もまだまだ多いのである。それに何しろ機械のことで、「島田」を探せと命じた時に「鳴田」を見過ごすなどと融通のきかない点もある。いずれ将来的にはそれらの未熟も克服されようがとりあえず現時点では、カードとオンラインの両方に当たる必要が常にある。それは確かに煩雑なことであるけれども、しかし四方八方検索しているうちに意外な資料を発見するというのも時にはあったりするので、なじんでみればこの三国志のような目録の鼎立状態もそれなりに味のあるものなのではないかとわたしはひそかに感じている。

### 3 あの本を買え

以上に述べたことは、図書館のどこかにある文献をいかにして見つけ出すか、という問題である。言うまでもなくそもそも求めている文献

が図書館に所蔵されていなければいくら分類や目録が整備されてもそれはあだ花でしかないのです、実は図書館にとって最も重要なのがそこにあるような文献を揃えているかという点であるのは当然だ。だがしかし、分類や目録の扱い方がそれなりに利用者に知られているのとは裏腹に、図書館の購入図書がどのように選ばれ決められているのか、その過程や基準のごときものは杳として知られていない。職員のはしくれであるわたしもそのあたりはよく知らなかったもので、これも上司に尋ねてみた。その概要は次のとおりである。

まずその過程であるが、最初に取次の新刊書リストに基づいて図書館職員で構成される選書委員会が購入の原案を作成する。それに各学部の教授等が商議員として手を加え、そしていろいろ偉い人の承認を得て決定される。選書方針としては、高度に専門的な図書は各学部の図書室が備えるであろうから、附属図書館としてはむしろ基本的教養的古典的概説的学際的なものに力を入れる。そしてあまり廉価でないことを前提に、定評のある出版社のものや書評で取り上げられたものを選んだりある特定のテーマに関するものを集めたりするのであるが、しかし絶対的な原理原則があるわけではない、というよりその実態を一言で要約すれば、「金がないので本が買えない」ということなのである。

金がないのは薄々察していたことで、最近の『静脩』を読んでも、代々の館長が金策にかけずり回る御苦労が偲ばれる。自分が専攻する国文学関係で言うと、書棚で最近目につくのは寄贈書の相対的な多さである。現在刊行中のある近世文学の叢書などは、たまたま附属図書館の所蔵本を底本に採用した作品が収録されている巻は寄贈されて書棚にあるがそれ以外の巻は欠けていて、まことに半端な状態となっている。附属図書館は幸いなことに古典文学の原本などは豊かに所蔵しているので、それをもとにして出版された図書を出版社から寄贈してもらえるのはありがたいことである。だがそれは親

の遺産の利子で食いつなぐようなものであり、それに頼りすぎるのは健全でない。

全般に附属図書館は、こと新刊書に関してははなはだ手薄でほとんど期待できない、という感覚は今では多くの利用者に共有されている。何をどうしたら図書予算が増えるのか、それはわたしなどには全く判らないことであるけれども、右のような感覚が定着するのは附属図書館を愛する者としてとても残念だ。乏しい予算をやりくりする図書館内外の選書担当の方々の御尽力には敬意を払いつつ、それでもなお魅力的な蔵書を構成できるよう関係者の一層の御健闘を願わずにはいられない。

ところで学生の利用者は図書館の選書に何ら口を出すことができないのかということ、それはできるのである。「学生希望購入図書」という制度があって、図書館に置いてもらいたい本の書名や出版社等と自分の氏名等を用紙に記入し入口左の掲示板のところにある専用の箱に投函すればそれでよい。簡単なことなのだが、遠慮があるのかそれとも制度自体が知られていないのか、どうしても利用者が一部に偏りがちであるらしい。このような制度は広く薄く利用されることが理想的なので、なるべく多くの有権者の方に一度は清き一票を投じていただきたいものである。

予算の上でもこれは、決して潤沢ではないにせよ通常の購入予算と比較してあなどりがたいだけの額が別枠として用意されていて、自分のリクエストが通る確率はかなり高いとのことであるから、附属図書館の蔵書の充実のためにも是非大方の御協力を仰ぎたい。但しべらぼうに高い本、べらぼうに安い本、既に総合人間学部など学内の他のどこかの図書室に所蔵されているもの、絶版書や品切書、いくら何でも附属図書館には不要不適切なもの、などは没になる。また受入作業に数か月かかり、お急ぎの方には間に合わないのが大きな難点である。

#### 4 またの会う日を

長く二股膏藥として附属図書館に貼りついてきたわたしもこの3月で京都大学を離れることとなった。そこで最後に、卒業等で同じように京大を離れる人達のために、また既に卒業した人達や今は在籍中の人達もいつかは卒業しようからその人達のためにも、卒業した後でもこの図書館を利用できる「卒業生利用証」について宣伝しておこう。

附属図書館は京都大学の卒業生専用の利用証を発行している。卒業証明書を持参して平日の昼間に来館していただければ手続きはすぐに済むのだがカード自体を作成するのに2週間ほどかかるので、それを取りにもう一度平日の昼間に来館していただく必要がある。この「平日の昼間」というのが御用繁多の社会人の方々には難関なのだが、しかし一度そこを乗り越えられればその後は夜間でも日曜日でも随時図書館を利用できるようになる。なお卒業生の場合、資料利用はすべて当日限りとなって1週間の貸出はできないなどいろいろ制約はあるが、とりあえず館内の資料を普通に閲覧することはまず一とおり可能である。

図書館の欠点ばかりをあげつらうような格好になってしまったが、附属図書館には附属図書館ならではの様々なよさがあるということは今更言うまでもないだろう。この図書館では多くのことを学ばせてもらったし何よりもここは居心地がよかった。ここで芽生えそして実った恋をわたしはいくつか知っている。それはどうでもよいけれど、とにかくこれからも附属図書館の資料とサービスとが一層充実し、一層有意義に利用される貧しくてもすばらしい図書館になることを心から願っている。今後は一介の卒業生利用者としてそれを見守ってゆきたい。

# 大学図書館サービスの一考察

附属図書館事務部長

繰 田 智 晴

## 1 はじめに

本誌32巻2号には「利用者からみた大学図書館システム」と題して、工学研究科石原先生から、3号には理学部3回生清水君から、4号には卒業生利用者の野



口さんから図書館の今後に期待をかけて優しい中にも、ぴりりと辛い玉稿をいただき、掲載できたことを編集委員一同お礼申し上げます。今回は、お三方の御意見にも呼応するものとして、学術情報システムにおける大学図書館のサービスについて概略を記してみます。

近年、大学図書館をとりまく環境は、急速に変わりつつあり、情報処理技術とネットワーク技術の発展、学術研究の進展、大学教育の改革、国際化や生涯学習社会への関心の高まり等新たな状況への適切な対応が求められている。

## 2 大学図書館の指針

図書館にとって重要な影響のあるもので、最近公にされたものとして、まず、平成3年6月の『大学設置基準』の改正がある。この大綱化された基準では、図書館は学部の種類、規模等に応じて図書・学術雑誌等を系統的に収集すること、又、適当な規模の閲覧室、十分な数の座席を設置すること等ハード面の数量規制が緩和されたことである。他方では、図書館機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員を配置すること、又、情報の処理

及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに、資料の提供に関し、他の大学の図書館等との協力を努めることを規定して、質に基づく運営を図ることで、新たなサービスへの期待がうかがえる。このように、大学で資料を大量に所有していなくても、学術情報システムの活用や大学間の相互協力を推進することにより、研究・教育に必要なサービスを補うことがシステムとして可能になっている。

次に、平成5年12月の学術審議会学術情報資料分科会学術情報部会による『大学図書館機能の強化・高度化の推進について（報告）』がある。この報告書は、図書館プロパーの報告としては、はじめてのものであり、平成4年7月の学術審議会答申『21世紀を展望した学術研究の総合的推進方策について』の中で、大学図書館等の機能強化について提言された事項及び今後検討が必要とされる事項を中心に審議を行い、大学図書館機能の強化・高度化を推進していく上での課題や課題解決のための方策等について多岐にわたり、まとめられたものである。提示されている課題は、容易に実現可能なものから一図書館の努力のみでは実現が望めないものまで記述されているとはいえ、現時点での大学図書館のガイドラインといえよう。

## 3 図書館サービスのキーワード

『図書館サービスの再構築』（M. K. バックランド著）という本がある。原本の副書名にa manifestoとあり、自他共に認める良書である。それによると、図書館サービスの基本原則の項で図書館サービスは、以下の2つの根拠を基本原則としている。

(1) 図書館サービスの役割は文献へのアクセスを容易にすることにある。

(2) 図書館の使命はその帰属する組織の使命とか、奉仕対象者の活動を支援することにある。

(1) では文献、アクセス、容易にするをキーワードとし、(2) ではニーズへの対応ということ 키워ドとして、大学図書館のサービスの基本的な考え方に論点を絞ることにする。

#### 4 大学図書館におけるサービスの考え方

(1) 文献、アクセス、容易にする

これまでに国・公・私立大学の図書館で所蔵している蔵書数は2億冊以上であるが、昨今の出版量の増大、価格の高騰、情報媒体の多様化により、図書館資料の収集をめぐる状況は非常に厳しくなっている。最近数年間の統計では、国立大学の図書購入冊数は急減している。今後、個々の大学図書館が十分なコレクションを形成することは困難になっており、分担収集体制を整備する必要性も高まっている。このような状況で文献の収集・利用に際し、学術情報センターのデータベースを活用することも有用である。

次に、アクセスを容易にするということで、電子図書館では文献が図書館に所蔵されている必要はない。しかし、紙メディア文献、フィルム等の非電子メディア文献では、利用する文献は図書館に所蔵しているか、若しくは図書館間相互貸借(I L L)を利用することになる。従って、文献の共有、有効利用のために現状では『大学設置基準』にも規定されているように、I L Lが重要になってくる。その円滑な運営のためには、まず、学内図書館(室)の共通利用等の協力及びO P A Cの整備充実は不可欠である。更に、現在のO P A CにいろんなLOOK-UP機能を持たせたユーザ・フレンドリーなものにすることは今後の課題である。なお、基本的なこととして本誌4号の図書館利用についての解説のとおり、上手に文献へアクセスするためのknow-howを心得ていることも大切なことである。

(2) ニーズへの対応

##### ①情報資源の整備充実

大学図書館は、一次資料の重要な蓄積場所であり、学内の需要に応じて情報資源の整備に留意すべきである。又、学内L A N(K U I N S)を積極的に活用して、大学図書館の機能の高度化やサービスの拡充を図る必要がある。他方、ネットワークは、学外でも急速に整備されつつあるし、国際的な広がりを見せており、各種ネットワークの活用によるサービスの拡充で利用者のニーズに応えなければならない。その促進のためには学内図書館(室)間の連携、学外の図書館・研究機関との協力が重要な要件となる。今や、個々の一図書館のみでは情報資源の拡充が望める時代ではない。

##### ②利用者サービスの充実

図書館の潜在的な利用者数は、現実の利用者数をはるかに上回り、本誌3号でも指摘されているように、利用者は図書館の機能面、所蔵資料、提供するサービス、雰囲気等に左右されることは予想にたがわないところである。けれども、電子図書館における利用は、インフラストラクチャーの整備や提供する電子化資料が大きく影響する。顕著な例としてK U I N Sを介して24時間利用可能なM E D L I N E等の利用では、利用者と図書館員とのマン・ツー・マンによるサービスの提供からセルフ・サービス化へとサービス形態がシフトしている。このような状況の下、本誌2号でも大学院生を対象にした図書館利用教育の必要性を御指摘いただき、痛感しているところである。ちなみに、A C R L(全米大学研究図書館協会)が公表している『大学図書館文献利用指導指針』や『総合大学図書館基準』等では、図書館利用教育を図書館の重要なサービスと位置づけている。なお、日本図書館協会でも1995年に『図書館利用教育ガイドライン』(第二次案)を公表し、利用者が自立して図書館を含む情報環境を効果的・効率的に活用できるようにするために、体系的・組織的に行われる教育が重要であるとして、5段階レベ

ルのプログラムが例示されている。

学内で図書館が行う図書館利用教育のプログラム化には図書館の現状把握、利用者のニーズの把握、教官との連携及び大学教育との関連に留意することが必要である。実施に際しては計画(Plan)し、実施(Do)して、評価(See)することが重要といえる。更に進めて、この図書館利用教育も、大学全体で行う情報教育(或いは情報リテラシー教育)の一環として実施されると効果的と思われる。そのためには、図書館と大型計算機センター、情報処理教育センター更には、専門分野の学部・学科等との連携・協力を

促進することが望まれる。

## 5 おわりに

附属図書館では、従来から調査研究室を設置し、学内教官の協力を得て、主として図書館資料の整備や業務の電算化等の諸問題に対処してきたが、平成8年度からは附属図書館研究開発室として、機能の充実が図られることになった[参照本誌3号]。その研究開発室要項の一項に図書館の利用方法に関することが定められており、今後に大きな期待がされることである。

## 外国の新聞・週刊誌が増えました

1月から新たに外国の新聞、週刊誌が増えました。週刊新聞、週刊誌は1階ラウンジに備えました。ご利用下さい。

### < 日刊新聞 >

#### Guardian (英)

The Times に続く英国高級誌

#### New York Times (米)

アメリカのみならず国際的にも強い影響力を持つ新聞。世界各国にめぐらした情報網を駆使した国際ニュースに定評がある

#### Die Welt (独)

政治、経済ばかりでなく文化、スポーツ、芸能等多方面にわたり報道されている。読みやすい平易な文章に徹しているため、一般大衆層に定着している

#### Le Monde (仏)

フランスの指導的(leading)な一般紙だが、ライバル紙 Le Figaro に較べ政治的にはより中道

#### Straits Times (シンガポール)

シンガポール発行の英字日刊紙。特に東南アジア諸国の動向分析に重点を置く



<週刊新聞, 週刊誌>

**Guardian Weekly (英)**

Washington Post, Le Monde 紙と提携。分析の鋭い論評記事に定評がある

**Newsweek (米)**

ライバル誌 Time と甲乙つけ難い。Time より少し娯楽色が少ない

**New Yorker (米)**

アメリカの雑誌出版界の最良部分を代表する週刊誌

**Der Spiegel (独)**

定評ある政治, 社会面での国際色豊かな記事に加え, 科学や音楽など文化面にも多くのページを割いている

**L'Express (仏)**

Der Spiegel より硬派, より多く国内政治を扱うが, より批判的

## 附属図書館へようこそ

平成8年度の新入生・新院生(修士課程および博士課程)の方の図書館利用証を入学式の翌日4月12日(金)から交付します。利用証は、入学・進学の際の名簿をもとにすでに一括作成してありますので、すぐにお渡しすることができます。利用案内に挟み込んである「京都大学図書館利用証交付申請書」に必要事項を記入の上、学生証を添えてお申し込みください。下記期間中は新入生・新院生を対象とした利用証交付カウンターを設置します。

**期間：4月12日(金)～4月26日(金)**

**9時～17時**

**(土・日は10時～16時45分)**

**場所：附属図書館1階**

また、教職員、聴講生、研修員などの方の新規発行や在籍期限更新にともなう再発行の申請・

交付も随時インフォメーションカウンターで受け付けています。こちらは発行までに1週間程度かかります。

**時間：月～金 9時～16時45分**

**土 10時～11時45分**

**13時～16時45分**

**日 休止します**

**場所：附属図書館1階**

なお4月から、入退館機の更新にともないバーコードの付いていない利用証では入館ができなくなりました。まだ利用証の交換をされていない方はすみやかに交換をお済ませください。附属図書館1階の特設カウンター(4月26日まで)、インフォメーションカウンターで受け付けています。

## 貸出・返却・入庫検索時間の変更について

平成8年4月より、工学部化学系雑誌の地下書庫への移動に伴い、現在より利用が制限されることのないようにとの希望もあり、また工学

部以外の利用者からも、書庫の利用時間の延長の希望があることから、貸出・返却・入庫検索を、以下のように変更いたします。

	図書、雑誌の貸出・返却時間	入庫検索時間
月～金	9:00～20:00	9:00～20:00
土	10:00～16:00	10:00～16:00
日	10:00～16:00	10:00～16:00

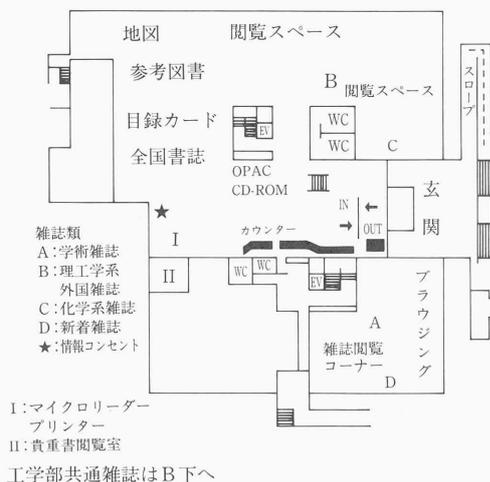
\*開架図書の貸出・返却時間は、9:30から（月～金）。

12:00～13:00は書庫内図書・雑誌の出納、相互利用業務、館内複写、参考業務は行わない。学外者の入館受付は行う。

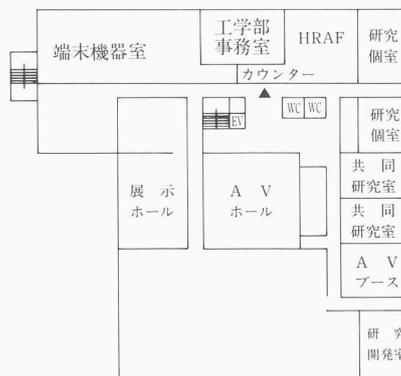
## ここが変わります

1. 入退館機が新しくなり、入口近くに設置します。入館には、バーコード入りの図書館利用証が必要です。これに伴って、インフォメーションカウンターが移動します。
2. 目録カードを今の参考図書のコーナーに移動します。
3. 辞書・縮刷版・J I Sは参考図書の並びへ移動します。
4. 工学部の雑誌のうち、新着雑誌（当年分・前年度分）・Chemical Abstractsは1階に残りますが、それ以外は地下書庫（B下）の工学部雑誌スペースに移動します。
5. 新聞ラウンジを拡張して雑誌も置きます。座席数も増やしますので、ブラウジングコーナーとして、くつろいだ空間で新聞・雑誌をご利用いただけます。
6. OPAC, CD-ROM (MEDLINE 以外) をメインカウンター前にまとめます。
7. 2階の文庫本のうち、ブルーボックス・コンピュータマニュアル本は、他の文庫本と同じ場所（2階ロビー）に移動します。
8. 3階のカウンターで受付けていた、貴重書・AV資料等は、すべて1階メインカウンターで受付をします。

### 1 F 雑誌と参考図書のフロア



### 3 F 特殊資料と研究スペースのフロア



## 新入生オリエンテーションのご案内

桜咲く4月、京都大学のキャンパスにもフレッシュな顔がたくさん見られる季節となりました。新入生のみなさんに図書館の利用方法を知っていただき、大いに利用していただこうと、オリエンテーションを下記の日程にて開催することになりました。図書館の建物内の設備やいろいろなサービスを知っていただき、キャンパス・ライフに役立てていただきたいと思います。第一部、第二部それぞれ6回ずつ開催しますので、都合のいい時においでください。

### (第一部) 図書館の利用方法

日時：4月15日(月)～17日(水)の3日間

各日 12:15～12:45と15:00～15:30の2回

場所：附属図書館3階AVホール

- 内容：1. 附属図書館内の施設・設備の案内  
2. 利用証・貸出・返却・予約・更新等の利用方法の説明  
3. カード目録とOPACについて  
4. ビデオ・語学テープの利用法  
5. 学内部局の図書館について

### (第二部) OPC/TSS の使用法説明と実習

日時：4月24日(水)～26日(金)の3日間

各日 12:15～12:45と15:00～15:30の2回

場所：附属図書館1階カウンター前

なお、平成8年度のオリエンテーションの実施計画は、この他に以下のようなものを予定しております。

実施にあたっては、その都度通知いたしますので、ふるってご参加ください。

- (1) 利用者のためのNCSIS-IR講習会(6月, 10月) 学内研究者・大学院生を対象にした講習会。OPAC利用登録者を対象に、学術情報センターの情報検索の利用のために開催します。

- (2) 中級オリエンテーション(10月)

卒論準備者のために、図書館を使っての文献の探し方・入手の方法などをお知らせします

- (3) 図書館ツアー

5月中旬～6月, 10月下旬～11月,

2月中旬～3月(予定)の毎週水曜日10:00から30分程、書庫等の館内設備をご案内します。

## 図書館のうごき(1)

平成7年度

京都大学インターネット講習会

(第3回高度情報化フォーラム)

近畿地区国公立大学図書館協議会研究集会を兼ねる

平成8年1月23日(火)

平成7年度

第9回商議会専門委員会

平成8年1月29日(月)

1. CD-ROMデータベースのネットワークサービスにおける経費負担について(平成8年度における「MEDLINE」の経費負担について)
2. 平成9年度概算要求について
3. 今後の進め方等について
4. その他

### 平成7年度 第3回商議会

平成8年1月29日(月)

議事前報告

1. 前回商議会以降の商議員の交替について  
議事
1. 平成7年度第2回議事要録の承認について
2. 平成7年度実行予算(案)について
3. 附属図書館商議会専門委員会からの検討経過について
4. 平成9年度概算要求について
5. 京都大学附属図書館利用規程の改正について
6. その他

### 図書館利用証の交換作業開始

平成8年2月13日(金)から  
3月29日(金)まで

### 平成7年度 第1回学内講演会

日時：平成8年2月16日(金)

14:00~16:00

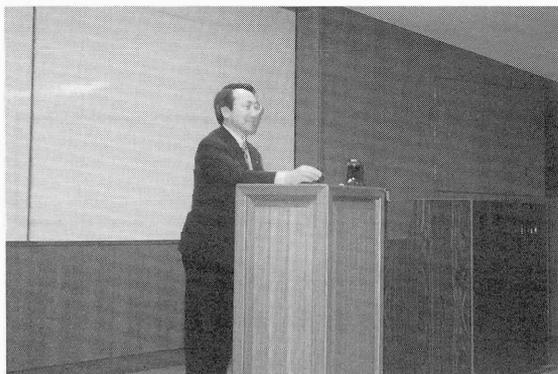
<講演>

「開かれた図書館を旨として」

<講師>

雨森 弘行(三重県立図書館長)

60名の参加があり、講演会終了後講師を  
囲む懇談会が開かれた



講演風景

### 平成7年度 第3回図書館情報システム特別委員会 目録業務システム専門委員会

平成8年2月20日(火)

最終報告案作成

### 平成7年度 第2回学内講演会

日時：平成8年2月26日(月)

14:00~15:30

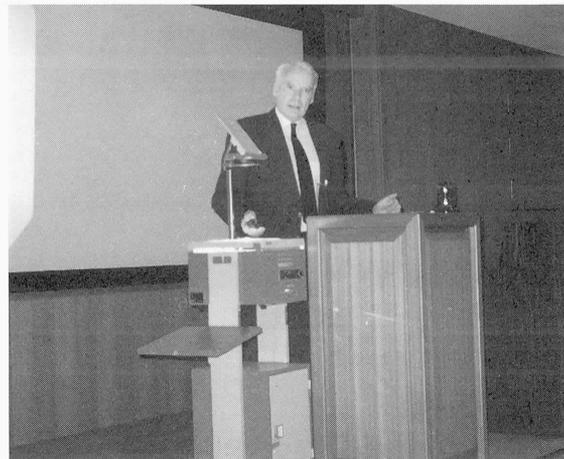
<講演>

「最近のドイツにおける電子図書館の状況  
について」

<講師>

Wattenberg. U. (GMD 所員)

55名の参加があった



講演風景

平成7年度  
近畿地区国公立大学図書館協議会  
主題別研究集会

日時：平成8年3月7日(木)  
14:00～16:00

〈講演〉

「ロシア国立図書館の現状と課題」

〈講師〉

ハルラーモフ・ヴィクトル・  
イワーノヴィチ

(ロシア国立図書館書籍史部長)

70名の参加があった



講演風景

平成7年度  
近畿北部地区国立大学図書館  
機械化連絡会議

平成8年3月14日(木)

小委員会 15:00～

本会議 16:00～

平成7年度  
第4回商議会

平成8年3月18日(月)

1. 平成7年度実行予算について
2. 商議会専門委員会からの報告
3. 平成8年度大型コレクション及び自然科学系図書資料の収書計画について
4. 研究開発室の要員について
5. その他

臨時休館

平成8年3月25日(月)～3月31日(土)

入退館機更新工事

館内レイアウト変更作業

端末機器室の設置

平成8年3月22日

30台が設置された



寄贈図書資料紹介

📖 長寿の秘密

📖 長寿と日本食

／家森 幸男 (人環)

📖 変貌するテキスト メルヴィルの小説

／福岡 和子 (人環)

- 📖 水滸伝 第4巻  
／清水 茂 (名誉教授)
  
- 📖 「世界単位」から世界を見る  
／高谷 好一 (東南ア研)
  
- 📖 海外科学技術資料受入目録1995  
／長尾 真 (工)
  
- 📖 上山春平著作集 第2巻 歴史の方法  
／上山 春平 (名誉教授)

- 📖 森へゆこう  
／農学部演習林
  
- 📖 音楽心理学の研究  
／梅本 堯夫 (名誉教授)
  
- 📖 イェイツと能とモダニズム  
／長谷川 年光 (名誉教授)

----- 目 次 -----

< 巻頭言 >

- ・ 附属図書館商議員の役割…………… 1
- ・ 附属図書館利用についての二股膏藥的解説 3
- ・ 大学図書館サービスの一考察…………… 7
- ・ 外国の新聞・週刊誌が増えました…………… 9
- ・ 附属図書館へようこそ…………… 10
- ・ ここが変わります…………… 11
- ・ 新入生オリエンテーションのご案内…………… 12

< 図書館の動き >…………… 12

- ・ 京都大学インターネット講習会
- ・ 第9回商議会専門委員会
- ・ 第3回商議会
- ・ 図書館利用証の交換作業開始
- ・ 第1回学内講演会

- ・ 第3回図書館情報システム特別委員会  
目録業務システム専門委員会

- ・ 第2回学内講演会
- ・ 近畿地区国公立大学図書館協議会  
主題別研究集会
- ・ 近畿北部地区国立大学図書館機械化連絡会議
- ・ 第4回商議会
- ・ 臨時休館
- ・ 端末機器室の設置

< 寄贈図書資料紹介 >…………… 14

< 目次 >…………… 15

- ・ 図書館カレンダー…………… 16
- ・ 後記…………… 16

## 図書館カレンダー

4月1日(月)  
～5日(金) 図書整理等により休館  
4月15日(月) 春季長期貸出の返却日  
4月29日(月) 休館 (みどりの日)  
4月30日(火) 休館 (月末休館)

5月3日(金) 休館 (憲法記念日)  
5月4日(土) 休館 (国民の休日)  
5月6日(月) 休館 (子供の日振替)  
5月31日(金) 休館 (月末休館日)

後記

館報は利用者と密着したものでなければならぬと考えています。この一年間その方針に基づいて利用者の図書館にたいする意見・感想を学生・研究者・院生にお願いしてきました。その締めくくりとして、今年退官する

繰田部長に利用者の意見・感想について纏めていただきました。遡及入力も計画どおり進行しています(モ)



遡及入力風景

京都大学附属図書館「静脩」

Vol. 32, No.4 (通巻121号)

発行：1996年3月29日

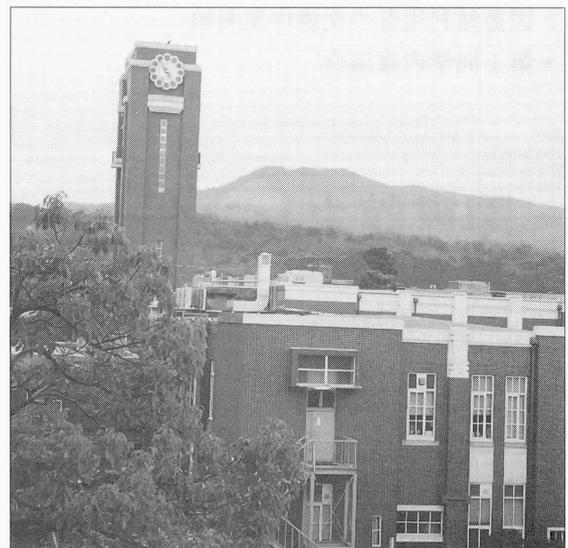
編集：静脩編集委員会

(責任者 附属図書館事務部長)

発行：京都大学附属図書館

京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-2613



京都大学時計台 (平成8年3月22日)